

平成 29 年度「特別支援教育に関する実践研究事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」  
成果報告書

受託団体名

千葉県教育委員会

## I 概要

## 1 モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
千葉県教育委員会	特別支援学校	知的障害	ちばけんりつきみつとくべつしえんがっこう 千葉県立君津特別支援学校

## 2 研究課題

各教科等を合わせた指導についてどのような力が身についたのかを明確に示すことができるよう、学習内容・方法・評価の在り方について整理し、効果的な指導方法について研究する。

## 3 研究の概要

授業を5つの視点（適切な実態把握、場の設定、教師の支援、保護者との連携、教材教具づくり）で見直し整理する。また、次期学習指導要領が示す3つの柱（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）から、授業の目標を設定し、終了後の児童生徒の姿を評価することで、一人一人の教育的ニーズに応じた学習の展開と段階的な学習の内容や評価の在り方について取り組んだ。

## 4 研究の成果

上記3の5つの視点はどれも授業づくりには欠かすことのできない視点であり、5つの視点で授業を見直したことは、職員が児童生徒一人一人の教育的ニーズをより意識した授業づくりにつながった。また、授業の内容が実態を踏まえてより精選され、教材を個々に合わせて準備することで的確な支援ができるようになった。さらに、評価という視点が加わったことで、今までの「楽しく活動できた」「がんばって最後まで取り組めた」という評価から、「何ができるようになったか」という視点で、活動を振り返るようになった。こうした児童生徒の変容を、より客観的に評価するために、次期学習指導要領の知的障害の教科の各段階を踏まえて、各学部で評価表やチェックリストを作成した。評価表やチェックリストの作成を通して、目標がより具体的で明確なものとなり、一人一人の学びを意識した授業づくりができるようになった。

## 5 課題と今後の方策

今年度は、評価の在り方や評価方法に着目して効果的な指導方法について研究してきたが、授業づくりについて、実態把握から授業後の評価で終わるのではなく、常にPDCAサイクルで見直しを図っていくことが授業改善につながっていくと改めて考える機会となった。また、今回作成した評価表やチェックリストは目標の明確化や学習の系統性や連続性を意識することにつながったが、評価の観点やその妥当性、学年や学部のつながりまでを含めて検討するには至らな

った。今後は、各教科等を合わせた指導について、今年度、研究してきた各教科の内容を踏まえると共に、日々の実践を通して、評価の観点や評価の基準を整理し、改善していくことが必要である。そして、各教科等を合わせた指導を行うにあたり、評価の観点を明確にするなどの評価内容と方法の見直しを図り、学校全体で共有し活用できるシラバスを作成して各教科等を合わせた指導の横断的で系統的な学習の展開を目指したい。